

文京区アカデミー推進計画策定協議会

第3回 生涯学習分科会 次第

日時：平成22年6月22日（火）18:30～20:30

於：文京シビックセンター10階 1001会議室

- 1 開会
- 2 はじめに
- 3 体系づくりに向けた項目（案）の検討
- 4 閉会

《配布資料》

【資料生涯－第6号】文京区アカデミー推進計画策定協議会 第1回生涯学習分科会
【作業結果再整理資料】

【資料生涯－第7号】文京区アカデミー推進計画策定協議会 第2回生涯学習分科会
【作業結果書き起こし資料】

【資料生涯－第8号】体系づくりに向けた項目（案）

【資料生涯－第9号】分野別計画骨子（案）

文京区アカデミー推進計画策定協議会 第1回生涯学習分科会【作業結果再整理資料】

日時：平成22年4月27日

午後18:30～20:30

場所：文京シビックセンター21階 2101会議室

1 「課題の洗い出し」作業結果

第1回生涯学習分科会では、文京区の生涯学習に関する特徴や課題について、委員の方から意見を頂き、さらに付箋紙と模造紙を使って整理を行いました。

第1回分科会での作業結果を再度整理し、表にまとめたものが、下記の表1、2になります。

表1：「生涯学習に関する特徴や課題」について出された意見の再整理結果

分類見出し	委員意見
区民の特徴	区民にはコスモポリタンが多く、地域へのこだわりが薄い
	区民の多くは豊かでおおらかで人がいい
	学び人が多い
	大学が多く、学生が多い
	大学生の参加率がいまいち
	有能な団塊世代がいる
	区民の文化教育水準が高い
	ITについてこれない、ついて来ない区民が増えている
	高所得高齢者が他区より多い
文京区ならではの生涯学習の追及	文京区ならではの生涯学習とは 文京学
全体方針の必要性	大学プロデュースの講座と区民プロデュースの講座のギャップが大きい
	生涯学習のフレームがないまま量だけ増やしている感じ
	コミュニティビジネス等の発想がない。そのため、学習メニューが少ない
各種講座の質の向上	生涯学習講座の量と受講者数の増加だけ言われて質の問題が話題にされていない
	講座の質が問われている
	民間CSの意外な苦戦
学習メニューの不足	メニュー開発できていない
	メニュー不足
	ステレオタイプな発想
	子どものための講座がない
充実した学習メニュー	地域文化に根付いた生涯学習メニューがある
	生涯学習メニューが充実している
発展的な学習の必要性	趣味の世界での学習になっている。次の活動へ展開できていない
	講座設定が啓蒙的から発展的な学習へとバランスよく構成（設定）されているか
幅広い世代の参加促進の必要性	世代間交流のできる講座
	学習の場が高齢者（女性が多い）になっている
充実した学習場所	区の学習の場所が多くある
活動場所の不足	施設が足りない
	組織の縦割り化により施設が複雑多岐
	生涯学習館なるものがない
	施設不足で自主講座開催希望も叶わず
	遊休施設がある

分類見出し	委員意見
施設を自由に使えない	施設を使いたいときに使えない
図書館開放の不十分さ	生涯学習を推進するための図書館の開放が十分でない
サークル活動活性化の必要性	サークルが活性化しないために、人材育成のセカンドステップがない 休眠サークルが多い
連携・ネットワーク促進の必要性	大学との相互協力の実態が見えない (PR 不足か)
	区立の図書館と大学図書館との相互交流がない
	区と大学の連携のあり方が不十分
	大学の特色をもっと PR (生かしたい) (大学の活躍の場拡大)
分かりやすい情報提供の必要性	ホームページが見えにくい、分かりにくい
	「こらびっと」の活用
	多くのメニューがあるが、私はほとんど知らなかった
相談窓口の必要性	学習相談窓口の設置
	生涯学習の区民へのサービス窓口体系 (サービス提供者側の区分と役割目標) の設置
人材活用促進の必要性	人材の活用。生涯学習司、インタープリターの取得後の仕事ははっきりしていない
	団塊世代を活用できていない
学習成果を生かす工夫の必要性	学習成果の地域への還元策
	講座や資格等が、地域の中にどうフィードバックされているのか分からない
	学び方、教わったものを生活にどう生かしていくか
人材育成の必要性	未来の文京のための若者へのアプローチが必要
参加しやすいプログラムの必要性	サラリーマンが区の生涯学習プログラムに参加できるかー考察が必要
	時間や経済的に余裕のある方でないと参加できないのではないか
計画推進上の課題	「協働」という概念が不統一のまま一人歩きしている

表2：「課題に対する解決の方向性」の検討に向けた議論で出された意見【再整理なし】

分類見出し	委員意見
生涯学習の目的	生涯学習をする目的、学んだことをどう活かすか
	良き区民になること (行政に対して批判の目を持つこと)
	人間が固くならないようにするため
	人は人と出会って人になる
	人との交流を通して、刺激や好奇心を得ることができる
	人との交流を通して、地域とのかかわりができる
	住民同士が相談や情報交換ができるように行政が支援する
	良く生きる
	感性 (感度) の高い人をつくる
	働いている人は、職業につながることを学ぶ
	生涯学習を通じた自己実現
生涯学習＝生きがい	
生涯学習に参加しない人をどのようにカバーしていけば良いか	魅力的な生涯学習メニューを用意する
	専門的な知識の再教育
	社会人向けの大学での講座を用意する
	経験者の話を聞くことのできる場が必要 (町会レベルなど)
	人材バンク制度を用意する。(人材活用と披露の場)
eラーニング等ハイテク機器の活用	

以上

文京区アカデミー推進計画策定協議会 第2回生涯学習分科会【作業結果書き起こし資料】

日時：平成22年5月18日

午後18：30～20：30

場所：文京シビックセンター21階 2101会議室

1 「課題の洗い出し再検討・分野別計画の方向性検討」作業結果

第2回生涯学習分科会では、文京区の生涯学習に関する特徴や課題について再検討いただきました。また、課題に対する解決の方向性について委員の方から意見を頂き、付箋紙と模造紙を使って整理を行いました。

第2回分科会での作業結果を表にまとめたものが、下記の表1、2になります。

表1：「生涯学習に関する特徴や課題」について出された意見

項目	委員意見
行政の体制	計画を推進するにあたっての、区役所の問題についても言及する 職員のバックアップをし、区民と連携していく
成果発表の場づくり	発表の場があるが、いつ行われているかが分からない 成果を披露する場はあるが、知られていない 広報が下手 軸が押さえられていないから、勝手にやっているのではないか 発表する場自体も不足している。地域ごとにバラつきがある
なぜ発表の場が必要なのか	成果の還元 やっているだけでは物足りない モチベーションアップ 人の欲求 サークルの活性化と個人の成長 仲間を認める場の1つが発表会 表彰の仕方のひとつ（アイデア賞など） 生きがいの1つになる
運営体制の見直し	(財) アカデミー文京だけが、生涯学習の場になっていないか。 (財) アカデミー文京だけに頼らない
大ホール事業の質の向上	いいものに触れるように内容の充実を（大ホールイベントの充実） 指定管理の前提に問題があるのではないか。 大ホールの管理と催しものについて
参加しやすい環境づくり	団体と個人の問題。個人が入っていけない
新規加入へのサポートが必要	リーダーへの支援が足りない 生涯学習司が窓口となり、相談に乗る 団体へ人を受け入れることに対する支援を行う
分かりやすい情報提供	情報が網羅的に見れて、さらに詳しい情報を取得できるようなHP 駒込病院などよい講座を無料で行っているが、知られていない
視聴覚機材の充実	各種の器具の更新を（OHPなどが古い）
その他	文京区の成り立ち、町のでき方を知る 生涯学習講座、体験学習 お年寄りに聞く

表2：「課題に対する解決の方向性」について出された意見

項目	委員意見
啓蒙、動機付け	良き区民になること（例えば目標例を作る）
受講者への支援	講座開発ではなく、受講料支援にすれば
サークル・団体への支援	コミュニティ系サークルにも支援する
	自主学習やサークルに活性化の支援をする
	活動を知らせる自主学習サークルにHPを与える
相談窓口の設置	推進課で区民へのオープンな窓口設置
	自主学習一時相談のデスクコーナーを常設する
	一般区民に初期の入門時の相談窓口をつくる
	学習相談窓口（サロン形式）の設置
	学習相談窓口の設置
	地域アカデミーに相談できるスペースをおく（可能なら図書館も）
	重要項目として区直営で養成→財団に委託しない
	区民から区への情報提供も大切
連携・協働推進	区が連携大学への希望・期待を明示する
	区役所、大学、区民代表との連携会議→大学の講座に関して
	行政、区民の協働の概念を明確にする
	職員と区民と一緒に働くことはできないのか
	実態として区と区民が協働できる体制がない
	区民と区との役割分担における比率を工夫していく
	大学での講座案内を情報として提供する
人材活用	生涯学習司を活用する
	人材活用策の拡充（過去の人材登録制度・・・教育委員会の後汚）
	ボランティアの概念をきちんと知る
	ビジョンを持ち、長く保ち変えない
	区は育て、場所を与えたら後は黙る→管理はほどほどに
	人材バンクの整備・活用
	人材を受け入れる先の具体的なイメージが必要
住民主体の運営	財団で足りないものは住民主体で作る→その支援
	サークル同士の連携を進める
	住民が施設ボランティアを務める
区の体制整備	推進課主催の講座開講、朗読
	区民まつりの支援（予算、もの）
	もういい加減に縦割りはやめる
	施設確保・新規開拓に職員が動く
	行政側の方向性を明示すること。協働側体制強化
	講座設定に関する（委員会）会議体を創設
施設活用	もういい加減に縦割りはやめる
	交流間、地活、地域アカデミーの性格分けをする
	真砂市場の空きスペース活用
	大学、小中学校の施設、教室を使えるようにする。期間限定でも
	地域交流センターの利用
	区の施設利用窓口の一元化（システム化）を図る。ただし、ネット接続環境がない人への対応も必要
	施設職員の資質を冷静に判断
	図書館の24時間開放
	区民は、サークルを立ち上げて場所がない。集まりたくても場所がない。

項目	委員意見
学習活性化 学習者のモチベーションアップ	生涯学習の目標を年齢・性別に作成・公開する
	応募者区民限定で小説、エッセイ、研究論文募集と表彰を再開する
	〇〇大会（発表の場）を年計画で組む
ホール運営	きちんと物語の書ける人を担当にする
	街づくりの視点でもホール運営する
	ホール事業と生涯学習事業の連携強化
	ホールボランティアの育成
職員配置の見直し	社会教育に興味がないなら、裏方に徹する
	社会教育に関心のある職員の配置
講座内容の充実	大学の講座を、教養から実学へ拠点を定めること
	啓蒙的な講座（区主体）の設定→区が金銭を負担
	生涯学習講座をともかく集める
	学習施設に限らず、講座をやるところと連携
	区民のニーズと、大学での取り組みを組み合わせしていく
講座検討における視点	受講してみたいか確認をとる
情報提供体制の充実	せめて区内の学校、大学の情報をHP上に公開する
安全・安心な活動環境	万が一のときの保険の備えが必要
	施設開放する側のリスクもある（利用者の怪我など）。利用者側の理解も必要
	ボランティア保険の呼びかけを行う

以上

体系づくりに向けた項目（案）

		(分野別の目標)	(基本的な方向)
◎きっかけづくり ◎学習ニーズを満たすため ◎学習を行うにあたって必要な資源 ◎よりよい学習や活動のために	1	いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	(1) 講座や学習機会の提供・充実
			(2) 学習や活動ができる場所の提供
			(3) だれもが学習・活動しやすい仕組みづくり
◎区民の主体的な活動	2	一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実	(1) 学習情報の収集・整理
			(2) 分かりやすい情報提供
			(3) 相談体制の整備・充実
◎区民の主体的な活動	3	区民の主体的な活動の支援	(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり
			(2) 活動成果披露の場の充実
			(3) 人材育成の推進
			(4) 人材活用の推進
◎計画推進のための仕組みづくり	4	学習ネットワーク形成のための連携・協働	(1) 地域との連携・協働
			(2) 区内大学との連携・協働
			(3) 区内企業・団体との連携・協働
			(4) 各種資源の発掘、保存、活用
	5	計画推進体制の強化	(1) 計画推進体制強化
(2) 各種事業の質向上の仕組みづくり			

分野別計画骨子（案）

I 生涯学習

1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

【現状と課題】調査結果や分科会での意見、現況整理データ等から課題をまとめる（10行～12行程度）。

◆ 現状

◎ 現況整理より

※ 網掛け部分は、最終的に仕上げていく段階で削除する。

- ・ いつでも、どこでも、だれでも学習ができるように、文京アカデミア講座や講演会の一部をインターネット配信する事業などを実施しました。
- ・ また、様々な区民の学習ニーズに応えられるよう、教養を高める講座から日々の生活を豊かにするための講座、資格取得やキャリアアップを支援する講座を開催するなどの充実を図ってきました。
- ・ そのほか、生涯学習活動を体験するなど、多くの区民の方々が生涯学習活動に参加できるような取組みも行っています。

◎ 調査結果より

- ・ しかし、調査では、この1年くらいの中に生涯学習に取り組んだことのある人は41.4%にとどまっており、特に、男性30歳代、40歳代と女性20歳代、40歳代で取り組んだことがない人が多くなっています。そして生涯学習を行わない理由では、男女ともに20歳代～60歳代では「仕事や家事が忙しくて時間がないから」が最も高く挙げられ、男性70歳以上は「特に必要ないから」、女性70歳以上は「自分の希望に合う講座や教室がないから」が高くなっています。
- ・ 区が注力すべき課題としては、「講座、教室を充実させること」「活動時間帯を工夫すること」「活動場所を工夫すること」で3割を超えています。
- ・ これらについて、今後取り組みたい生涯学習については、「教養的なもの」「健康・医学・食育」「家庭生活に役立つ技能」「仕事に関係のある知識の習得や資格取得など」といった回答が高くなっています。
- ・ また、活動時間帯については、調査より、「土日祝日日中（9時～18時）」「平日日中（9時～18時）」「平日夜間（18時～22時）」の順に望む割合が高くなっています。特に、「土日祝日日中」は、会社員（フルタイム）で、「平日日中」は専業主婦、「平日夜間」は学生で割合が高くなっています。
- ・ 活動場所については、「シビックセンター」「アカデミー文京などの生涯学習施設」「図書館」の割合が高くなっており、図書館は男女ともに20歳代～50歳代で特に高くなっています。

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 分科会では、学習の機会について、趣味の講座から実学的な講座まで、ニーズに対応できるよう内容と質を充実させる必要があるとの意見をいただいています。

- また、学習や活動をする場所の充実や、利用できる時間帯、費用面にも配慮することが必要であるとの意見をいただいています。

◎ 現状のまとめ

- これら、調査結果や分科会での意見より、様々な状況にある区民が希望する学習や活動ができるよう、学習の機会を充実させることが重要であることがわかります。
- また、講座や教室の内容の充実だけでなく、学習や活動のための施設確保や時間帯の配慮など、参加しやすい仕組みづくりをあわせて行うことが大切であることが分かります。

◆ 課題

- ① 区民一人ひとりのニーズに対応できる学習機会を充実させることが求められています。
- ② 学習や活動のための場所の確保や充実に努めることが求められています。
- ③ だれもが学習や活動ができるような配慮や仕組みづくりを進めることが求められています。

【基本的な方向】 文京区様の方針や分科会等での意見等から基本的な方向性をまとめる(3行~5行程度)。

(1) 講座や学習機会の提供・充実

◎ 分科会での委員意見より

- 区民の様々なニーズに対応できる学習機会を提供・充実させるため、教養的な講座から実学的な講座など、多岐にわたる機会を用意します。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

-

※ 区の方針、事業例、第3回分科会委員意見等を踏まえて、具体化する予定。

(2) 学習や活動ができる場所の提供

◎ 分科会での委員意見より

- 学習や活動ができる場所を充実させるため、今後、改築する生涯学習施設については、学習の場としてより一層利用しやすい施設にしていきます。

期待される効果

-

(3) だれもが学習・活動しやすい仕組みづくり

◎ 分科会での委員意見より

- 様々な状況にある区民一人ひとりの学習や活動意欲の実現を応援するため、時間や場所など、学習や活動を行うにあたっての制約を除くための配慮と支援を行います。

期待される効果

-

2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実

【現状と課題】

◆ 現状

◎ 現況整理より

- ・ 学習や活動、大学の情報など、生涯学習に関する様々な情報を収集し、ホームページや広報紙、CATVなどを通して情報を提供してきました。
- ・ また、生涯学習一日体験フェアでは、生涯学習情報・相談コーナーを設置し、情報提供だけでなく、相談対応も行いました。

◎ 調査結果より

- ・ しかし、調査結果では、生涯学習に取り組んでいない理由として、「十分な情報が得られないから」が15.0%挙げられ、特に男性60歳代と女性20歳代では3割を超えています。
- ・ さらに、区が注力すべき課題として「学習や活動について気軽に相談できる窓口を充実すること」が13.0%挙げられており、特に女性50歳代では25.0%挙げられています。

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 分科会では、ホームページを用いた情報提供について、情報が分かりやすく、かつ網羅的に見られるように工夫すべきであるとの意見をいただいています。
- ・ また、学習相談体制を整備すべきであるとの意見もいただいています。

◎ 現状のまとめ

- ・ これら、調査結果や分科会での意見より、活発な学習や活動においては、分かりやすく有効な情報が十分に得られることが大切であると言えます。
- ・ また、情報提供だけでなく、困った際などに気軽に相談できる場があることも重要です。

◆ 課題

- ① 区民の様々な学習や活動のニーズを満たすことのできる情報の収集・整理が求められています。
- ② 収集した情報を分かりやすく、入手しやすい方法で提供することが求められています。
- ③ 区民が気軽に相談できる機会と場が求められています。

【基本的な方向】

(1) 学習情報の収集・整理

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 区民一人ひとりの学習や活動意欲を満たすことができるようにするため、生涯学習に関連する様々な情報を収集・整理します。

期待される効果

-

(2) 分かりやすい情報提供

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 区民が手軽に欲しい情報を入手できるようにするため、収集した情報を一元化し、様々な情報をひとつの場所で得られるよう工夫します。

期待される効果

-

(3) 相談体制の整備・充実

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 学習や活動を豊かにするため、区民が気軽に相談できる機会と場を充実させます。
- ・ 様々な相談事に対応できる、総合相談の場を設けます。

期待される効果

-

3 区民の主体的な活動の支援

【現状と課題】

◆ 現状

◎ 現況整理より

- ・ 生涯学習活動を行う団体が相互に連携をとり、サークル活動を活性化するため、連絡会を開催しました。
- ・ また、生涯学習司や地域文化インタープリターなどの人材を活用して、企画展の開催や生涯学習一日体験フェアなどを行いました。
- ・ そのほか、「区民プロデュース講座」も開催し、区民の学習成果を活かした生涯学習を推進してきました。

◎ 分科会での委員意見より

- ・ しかし、分科会では、生涯学習司などの人材育成を積極的に行っていく必要があるとの意見の一方で、生涯学習司の資格取得後の活動の場が不足しているとの意見をいただいています。また、人材活用については、地域にいる様々な人材の知識や経験を地域に還元することが必要であるとの意見をいただきました。
- ・ また、成果披露については、成果を披露する場自体が少ないため、充実させることが必要であること、また、披露の場がある場合であっても知られていないことが多いため、広報にも工夫を行うことが必要であるとの意見をいただいています。
- ・ さらに、団体が自主的な活動を継続できるように、団体運営のノウハウなどの研修や講座を行うことが必要であるとの意見をいただきました。

◎ 調査結果より

- ・ なお、調査では、区が注力すべき課題として「教えてくれる人がいること」17.2%、「一緒に行う仲間づくりの機会を創出すること」11.3%などが挙げられています。特に、「一緒に行う仲間づくりの機会を創出すること」の割合は男性の方が高くなっています。

◎ 現状のまとめ

- ・ これら、調査結果や分科会での意見より、区民の自主的な活動においては、そのノウハウを教えてくれる場や、学習や活動を活性化させるための成果披露の場の充実、活動を共にする仲間がいることが大切であることが分かります。
- ・ また、人材育成・活用の重要性が認識されている一方で、人材が活躍できる場が不足しているのが現状となっています。

◆ 課題

- ① 区民の主体的な学習や活動を支えるための仕組みづくりが求められています。
- ② 学習や活動をより活性化させるため、成果を披露する機会の充実が求められています。
- ③ 生涯学習司や地域文化インタープリターなど、区独自の資格制度による人材の育成と活用が求められています。
- ④ 地域に存在する学習・活動経験者の知識や経験を地域に還元できるよう、人材

活用の推進が求められています。

【基本的な方向】

(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 主体的な活動を支えるため、団体同士が情報交換できるネットワークの形成、連携を進めます。
- ・ 万が一の際にも対応できるよう、安全・安心な活動環境を推奨します。

期待される効果

- ・ ●●●●

(2) 活動成果披露の場の充実

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 区民の豊かな学習や活動のため、成果を披露する場と機会を充実させます。
- ・ 活動や学習の成果を、地域に還元するための仕組みをつくります。

期待される効果

- ・ ●●●●

(3) 人材育成の推進

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 学習や活動を豊かにする人材の育成のため、生涯学習司や地域インタプリターなどの独自の資格を推奨していきます。

期待される効果

- ・ ●●●●

(4) 人材活用の推進

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 学習や活動を活性化させるため、地域にいる学習や活動経験者を活用し、その知識や経験を共有する機会を設けます。
- ・ 生涯学習司や地域文化インタプリターなどの資格取得者の活躍の場を充実させます。

期待される効果

- ・ ●●●●

4 学習ネットワーク形成のための連携・協働

【現状と課題】

◆ 現状

◎ 現況整理より

- ・ 文京区生涯学習推進計画（第2次改定版）では、生涯学習推進ネットワークの構築を掲げ、推進を図ってきました。
- ・ 特に区内大学とは、大学プロデュース講座や大学施設開放などを通して、連携・協働を進めてきました。

◎ 調査結果より

- ・ 調査でも、区が注力すべき課題として「大学の公開講座などを充実すること」24.2%と、大学との連携・協働に関連する回答が挙がっており、特に、女性の方が望む割合が高くなっています。
- ・ また、民間事業者との連携・協働に関しては、「時間が確保できるように企業への働きかけを進めること」が5.6%挙げられています。

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 分科会では、講座や図書館利用などにおいて、区内大学との連携を強化すべきであるとの意見をいただきました。
- ・ また、区民と区との協働体制を整えていくことが必要であるとの意見もいただいています。

◎ 現状のまとめ

- ・ これら、調査結果や分科会での意見より、学習や活動をより豊かにしていくために、大学や地域、企業などとの連携・協働が求められていることが分かります。
- ・ 特に、区内にある大学との施設利用や講座開講における連携は、区民一人ひとりの学習や活動ニーズを満たすために重要な役割を持っていると言えます。

◆ 課題

- ① 区民と区との協働体制を整え、より良い学習や活動を進めていくことが求められています。
- ② 区内にある教育機関、特に大学との連携・協働を強化進めていくことが求められています。
- ③ 区内の企業や団体との連携・協働により、幅広い分野での学習や活動を進めていくことが求められています。
- ④ あらゆる資源を活用し、区民の様々な学習・活動ニーズに対応していくことが求められています。

【基本的な方向】

(1) 地域との連携・協働

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 学習や活動の内容の充実と質の向上のため、地域住民との協働を進めていきます。

- ・ 地域住民からの情報を学習や活動の活性化に活用していきます。

期待される効果

- ・ ●●●●

(2) 区内大学との連携・協働

◎ 分科会での委員意見より

- ・ 学習や活動をより豊かにするため、区内大学との連携・協働の強化を図っていきます。大学図書館の区民開放なども引き続き要請していきます。

期待される効果

- ・ ●●●●

(3) 区内企業・団体との連携・協働

◎ 策定協議会委員意見より

- ・ ビジネスに関する学習機会の充実のため、区内企業との連携・協働を進め、人材交流や職場体験を進めていきます。
- ・ 幅広く、充実した学習や活動を推進するため、区内で活動する様々な団体との連携・協働を進めていきます。

期待される効果

- ・ ●●●●

(4) 各種資源の発掘、保存、活用

◎ 分科会での委員意見より

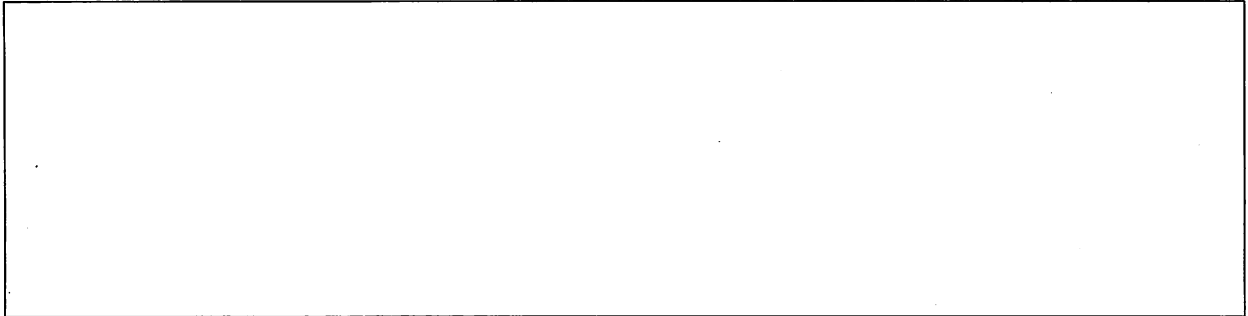
- ・ 学習や活動を豊かにしていくため、各種資源の発掘、保存、活用を継続して行い、連携・協働のネットワークを拡大していきます。

期待される効果

- ・ ●●●●

【事業例】

1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実



-
-
-